

特別展「スポーツの歴史と文化」子どもクイズ 【その2】

1) 参考館の銀皿で、ペルシアの王様が弓を射っている動物はなにでしょうか。



①ライオン



②トラ



③ヒョウ



と き ん てい おう し ゅ り よう も ん ぎ ん ざ ら
鍍金帝王狩獵文銀皿

ササン朝ペルシアの王様がヒョウに弓を引いています。王様は、百獣の王といわれるライオンを狩ることが多いのですが、ササン朝東部である中央アジアにはライオンはいないので、ヒョウ狩をおこないました。ふりむきざまに矢をはなつのを「パルティアン・ショット」といいます。パルティアという騎馬民族(馬を乗りこなし、あちらこちらに移り住んでくらす人びと)が、馬に乗ってにげていると見せかけておいて、ふりむいて正確に矢を射る戦い方から名前がついています。パルティアはこの戦い方で、ライバルであったローマ帝国をくるしめます。そのパルティアをほろぼしたのがササン朝ペルシアです。王様は強い動物を狩ることで自分の強さをみんなにしめしました。



ヒョウのもようが、ていねいに彫られています

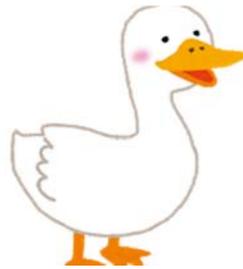


こたえ ③ヒョウ

2) アルゼンチンの馬^ば上^{じょう}ラグビー「パト」は、なかにボールがはいった 6 つの持ち手^{もて}つきのふくろ^{ふくろ}を取り^とり合^あってゴール^なに投げ^なげます。「パト」とはスペイン語^こでどんな動物^{どうぶつ}ですか。



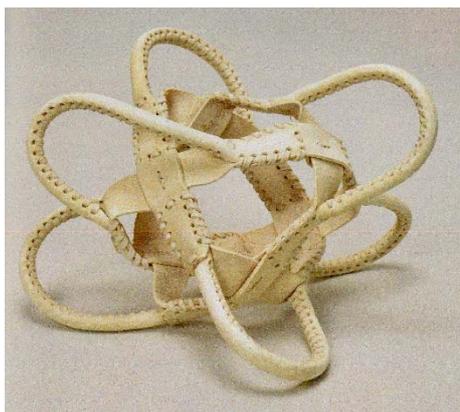
①ハト



②アヒル



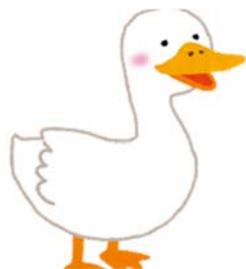
③カモ



パトのボールふくろ

1 チーム 4人で、馬に乗った 2 チームがボールがはいたこのふくろを取りあい、バスケットボールのゴールのような網にむかって投げられます。「パト」とはスペイン語で「アヒル」のことです。もともとはアヒルをふくろにいれてボールのかわりに使っていたようで、17世紀からすでにおこなわれていました。馬の上ではげしくぶつかりあうので、馬から落ちて死んでしまう人も多く、たびたび禁止（やってはいけません）されました。アルゼンチンでは馬、牛、羊などを平原で育てて生活します。そのしごとをするカウボーイのあそびだったものがスポーツになったとかがえられます。

アルゼンチンで人気のスポーツはサッカーですが、すぐれたポロ（馬に乗ってスティックでボールを打ちあう）の選手も多く、パトはアルゼンチンの国技（その国の伝統的なスポーツ）となっています。



こたえ ②アヒル

3) 寒い^{さむ}ところでくらすイヌイット^{ひと}の人たちのラグビーボールはどの動物^{どうぶつ}を
使^{つか}っていますか。





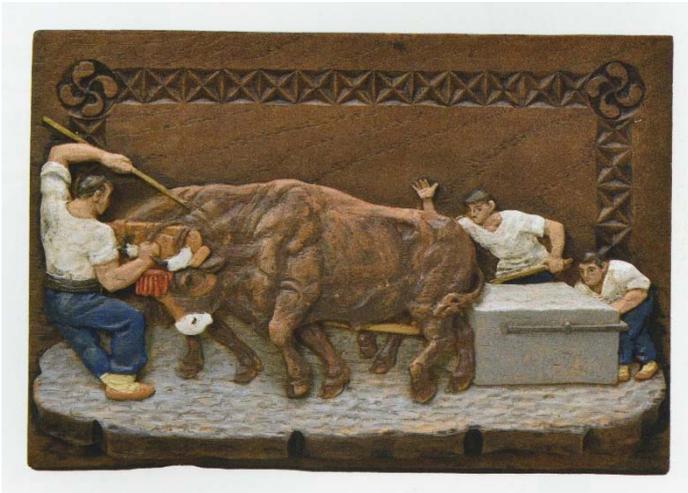
アザラシの毛皮ボール

アラスカやカナダ、グリーンランドなど北半球（地球を赤道で分けたとき北の部分）の寒いところにすイヌイットなどの人びとは、アザラシを狩りて生活してきました。そのアザラシの毛皮でボールをつくり、ラグビーのようなスポーツを楽しみます。かつてはアザラシそのものをボールにしていました。みんながほしいものをアザラシのおなかにつめて取りあうのです。ほかの人があきらめて追いかけてこなくなると、最後までもっていた人がそのアザラシを自分のものにできました。家族やなかまでチームをつくっておこなうこともありました。手でうばいあうので、かならずしもボールが丸くなければならないことはありません。世界でもボールをうばいあうスポーツはたくさんあります。

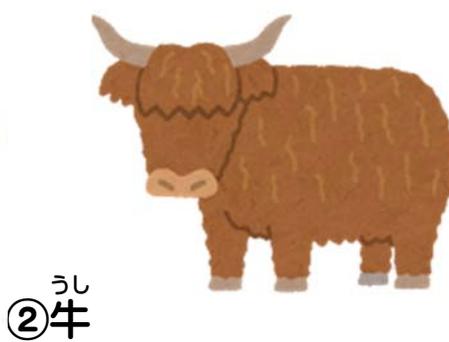


こたえ ①アザラシ

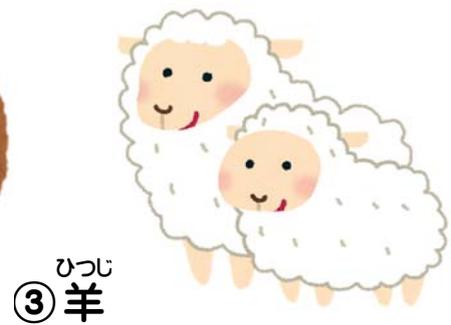
4) バスク民族(フランスとスペインの国のさかいに住む人びと)のスポーツのお祭りで重い石を引かせる動物はどれでしょう。



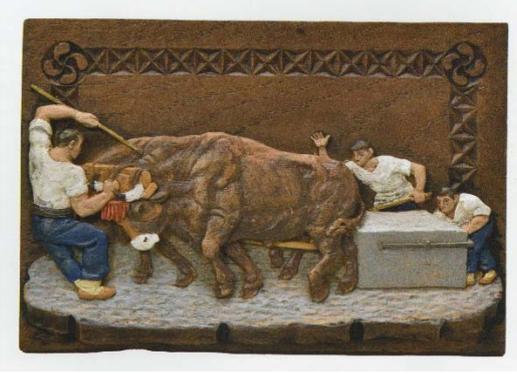
① しか
しか



② 牛
うし



③ 羊
ひつじ



うしひ
牛引きのレリーフ

バスク民族の人びとはピレネー山脈をはさんでスペインとフランスに住んでいます。
ヨーロッパで一番古い民族といわれ、自分たちの伝統をまもってきました。いまは
「バスクチーズケーキ」がよく知られていますね。大きな石をかついで首のまわりを
何度も回す「石かつぎ」や、牛2頭に1トンや、もっと重い石を引かせて20分間25メ
ートルのあいだを何度行ったりきたりできるかを競う「牛引き」などをします。ラケット
を使わないでかたいボールを手で打ち合い、がまんして最後まで打った人が勝つな
ど、多くは力強さや勇気をためられる「男のスポーツ」です。バスク民族はイスラム
教とキリスト教のあらしにくるしみますが、強い人びととしてほかの民族からおそ
われます。むかしからこのようなスポーツでからだをきたえていたのではないでし
ょうか。



こたえ ②牛